

浅川地区住民自治協議会だより



せせらぎ

みんなで創る 元気な浅川！

第 95 号

発行日 令和 5 年11月30日

発行人 山 岸 渡

TEL・FAX 026-244-5165

浅川地区防災訓練行われる ～浅川地区災害対策本部～

9月30日（土）朝7時30分震度6強の地震が発生したとの想定の下、各区長（自主防災会長）は電話で支所に被災状況第1報を伝え避難を開始、災害対策本部長（住民自治協議会長）以下、各班長等第1次配備者は9時までに防災対策本部を立ち上げ、避難してきた各区からの被災情報（第2報）を情報班に集める情報伝達訓練を行いました。

9時からの開始式の後、消防団浅川分団による放水訓練を皮切りに、参加者が2班に分かれ（A）消火器操作訓練及び消火栓の取り扱い方法、（B）救急救命・AED操作訓練、搬送訓練をローテーションで実施しました。また併行して赤十字奉仕団を中心に救急救護班による炊出し訓練が行われました。訓練の最後に麺つゆで味付けした炊き出し米が参加者に配られました。

近年甚大化する台風や線状降水帯によるゲリラ豪雨災害等への備えがますます重要になっています。浅川地区では幸いにして地区全体にわたる大きな災害が少なく、4年前の台風19号災害や平成26年の神城断層地震による被害の記憶も徐々に薄れつつある中で、“喉元過ぎれば……”の言葉を肝に銘じ、普段からの心構えと準備が必要だと改めて感じさせられました。



【訓練前に浅川小学校防災倉庫を点検】



【訓練開始式】



【消防団による放水披露】



【消火器操作訓練】



【消火栓の取扱い方法説明】



【AEDによる救命訓練】



【炊出し訓練～ハイゼックスに米を詰め、防災用釜で茹でました】



【終了式～若槻分署長の講評】

第41回「浅川ゆうわ祭」開催される！！

11月5日（日）昨年はコロナ感染を考慮して、外会場では飲食を伴う出店を取りやめ、ステージ発表も限定したりしましたが、今年はコロナ禍前に徐々に戻したいと地公連のみなさんがご苦労されて開催をすることができました。

展示コーナーでは写真、手まり、絵画、パッチワーク、陶芸など、趣味の域を超えた力作が揃いました。またステージ発表では出演した団体は初出演のグループもあり9団体で浅川小学校、北部中学校の合唱を皮切りに各グループ・団体の熱演に盛大な拍手が湧きました。

外会場ではゆうわ祭のスローガンの“お祭りパワー、地域力アップ”にふさわしく、焼きそば・燻製・魚の塩焼き・牛乳などの飲食品販売も再開、野菜や米、うどん・ラーメンの直売、社協のフリーマーケット・福祉バザー、育成会のしおり作りなど多彩な出店に大勢の来場者で賑わいました。

（教育文化部会 地区公民館連合会）

多彩な
ステージ発表



【さわやか太極拳】



【レク・ダンストゥインクル】



【育成会も久しぶりに出店！】

屋内会場・
展示コーナー



【手作品販売（更生保護女性会）】



【展示コーナー】



【恒例の焼きそば再開！】

外会場も多彩な出店
で賑わいました！



【魚串焼き販売】



【福祉バザー～社会福祉協議会】



【フリーマーケット（ふくちゃん会）】

地球まんまる「おらほの自慢聞いとくらい」で発表！ ～各地区の“イチオシ事業”を共有し合う～

10月24日（火）市民協働サポートセンターが企画した地域とNPOと市民の出会いの場「地球まんまる」の中で、16地区住民自治協議会が参加し、それぞれの地区の「イチオシ」事業を発表し共有し合う地区自慢大会が開催されました。

浅川地区から「チーム・フロンティア浅川（竹村美岐雄代表）」が参加、浅川ダムを中心とした周辺整備・交流やブランド薬師の保存整備活動についてプレゼンテーションを行い、各地区と情報交換を行いました。



【チーム・フロンティア浅川の池田茂さんが発表～意見交換も活発に！】



人権教育現地研修会行われる ～松代大本営・安茂里地下壕に学ぶ～



【松代大本営地下壕】



【安茂里大本営海軍部地下壕～“昭和の安茂里を語り継ぐ会”の説明を受けました】



10月6日（金）人権啓発委員会及び公民館共催で一般参加者8名を含めた19人で研修を行いました。

松代地下壕は戦争末期、徹底抗戦のため天皇及び政府機関を松代に移し大本営にしようと計画されました。この建設に多くの朝鮮や日本の人々が強制的に動員され、食糧事情も悪い中で過酷な労働を強いられ、犠牲者も多く出たと言われています。

安茂里の地下壕では司令所や通信関係の施設のために100mほど掘り進んだところで、広島・長崎に原爆が投下され終戦となり中止されました。

現在もロシアによるウクライナ侵攻が行われていますが、戦争の悲惨さを改めて痛感してまいりました。
人権啓発委員会 委員長 田中 稔

浅川地区戦没者追悼式挙行される

10月7日（土）戦没者御遺族11名を含め42名が参列して、浅川地区戦没者追悼式が行われました。

式は列席者黙祷、君が代斉唱に続いて、山岸実行委員長の式辞、埋橋県議、寺沢市議、竹元遺族会長の追悼の言葉が慰霊に捧げられました。



【十五年戦争の戦没者招魂碑～招魂碑の柱のお名前がある（公民館分室前庭）】

戦後78年を経過し遺族の高齢化が進み、遺族会員は現在23名と減少の一途を辿っております。

「新しい戦前」と言われる現在、世界は超大国間の覇権を巡る争いが各国に緊張と危機感をもたらし、極めて危うい流動的な情勢になっています。こうした中、我が国が経験した戦争を二度と繰り返さないためには何を為すべきか自問した一日となりました。

（浅川地区戦没者追悼式実行委員会）



【黙祷】



【山岸実行委員長 “式辞”】



【竹元遺族会長 “追悼のことば”】



【献花】



【遺族会、来賓のみなさん】

北部中学校校外学習行われる！～浅川の史跡や働く現場を歩く～

10月12日（木）・13日（金）北部中学校1年生・2年生の校外学習が行われました。

1年生は「地域を知る学習」として浅川・若槻を7コースに分かれて散策、浅川では白岩周辺、伺去神社・油井、ブランド薬師、浅川ダムコースをめぐり地域の方から説明を受けました。

2年生は「地域で働く職場体験」として、押田地区の農家のりんご園、老人ホーム、社会福祉協議会の“まちの縁側”などを訪問しました。

また北部中学校生徒さんは10月1日に行われた^{あさかわ ぶどう のうえん}浅川葡萄農園のブドウ収穫にも参加、実のもぎ取りや選別に汗を流しました。



【1年生の校外学習～（左から）マレットゴルフ場、伺去神社、浅川ダム】



【2年生の職場体験～（左から）りんご園、老人ホーム、まちの縁側】

浅川小学校「浅川チャレンジ」行われる！

10月27日（金）子ども達が地域を歩いて浅川地区の自然や史跡等を自分の目で見ることを通して、自分たちの暮らす浅川をさらに知ることを目的に「浅川チャレンジ」が行われました。

各学年ごとに6コースが設けられ、みんなで励まし合いながら目的地を巡りました。現地では区長さんほか地域みなさんに地域や史跡の説明を行っていただきました。



【1年生（石塚八幡神社）】



【2年生（ブランド薬師）】



【3年生（白岩）】



【4年生（長野市霊園）】



【5年生（浅川ダム）】



【6年生（石油井戸跡）】

浅川にワインの風を！～昨年比1.5倍の収穫！～

【地域おこしの現場から vol. 8】

10月1日（日）9月下旬の雨などにより劣化が進むことを懸念して、予定を2週間ほど早めて2年目の収穫が行われました。朝からの雨も8時過ぎには上がり、収穫作業には丁度良い曇りがちの日和となりました。

当日は宋さんの住む伺去地区を始めとして住民自治協議会・区長会、北部中学校、浅川改良事務所のみなさんや宋さんの友人・知人、また千曲川ワインバレーのSNSサイト「ワインな猫の手旅」を見て駆けつけたボランティアのみなさん総勢80名余が参集、摘み取り・選別作業にあたりました。

収穫されたのは白ワイン用6種類と赤ワイン用11種類の合計17品種のブドウ。

病虫害に見舞われ収量が懸念されましたが、1,130kg（！）と昨年の1.5倍の収穫量となり、昨年は午前中で終わった作業には2日間かかりました。

収穫されたブドウは2つの醸造所（小諸市、東御市）に持ち込まれ、小諸では白ワイン2種、東御では赤ワイン1種を醸造予定で、瓶詰後の熟成を経て来年の秋には「浅川産ワイン」となって登場することでしょう。

宋さんが「地域おこし協力隊員」として移住してから6年、浅川の地にしっかり足を据えて今日まで辿り着いたことに応援してきた立場で感慨を覚えます。今後ともみなさんのご理解とご支援を切にお願い申し上げます。
（浅川地区住民自治協議会 事務局）

梅雨や猛暑で病虫害に悩まされ心配をしましたが、浅川地区を始め大勢のボランティアのみなさんのご理解とご支援で今年も無事収穫を終えることができました。言葉では言い表せないほど感謝の気持ちでいっぱいです。来年には自前の醸造所を持ち、名実ともに「長野市浅川葡萄農園」として出発できるよう全力で取り組んでいく決意です。本当にありがとうございました、そして変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。
（宋 裕光（伺去））



【宋さんから作業の説明を受けて、摘み取り開始！】



【選別作業は人海戦術で！ ＊写真のブドウはシャルドネ】



【大勢のみなさんが参加しました。ありがとう！】

共に生きる



秋のふれあい会食会

おひとり暮らしのご高齢の方をお招きしてのふれあい会食会が開催されました。

今回は「かざぐるま保育園」の年中・年長のみなさんが参加してくれました。稲田にある保育園から歩いて浅川公民館まで来てくれたお子さんたちの体力に驚き、園児さんが自分たちで考えた素晴らしい挨拶と元気な歌や踊りに感動しました。

食事は今回も浅川社会福祉協議会の役員を中心としたボランティアさんの手作りです。貝だくさんの“すいとん”は昔懐かしく、心も身体もぽかぽかと温くなりました。

今年度は感染症予防に配慮しながら2回のふれあい会食会を実施することができました。浅川社会福祉協議会では来年度もこのような活動を続けていきたいと考えています。これからも地域のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。



「浅川杜協がおじゃまします」「縁側 de ござる！」



浅川社会福祉協議会では交流・つどいの場の創出を目的に、社協役員が地区にお伺いしてサロンを実施する「浅川杜協がおじゃまします」および、地域にある「まちの縁側」をお借りし区の垣根を越えてみんなが集まることのできるサロン「縁側 de ござる！」を開催しています。

今回は2日間にわたり、台ヶ窪区と浅川西条区にある「まちの縁側」にお伺いしました。

「まちの縁側」はヒト・モノ・コトがゆるやかにつながり合う地域の居場所といわれています。今回は職場体験学習に来ていた北部中学2学年の生徒も参加し、地域に暮らす人たちが集い、その場で生まれる活動でみんながゆるやかにつながり合うことを体感してもらいました。

浅川社会福祉協議会の出張サロンは「まちの縁側」以外の場所でも開催できます。ご興味のある方はお問い合わせください。(電話：262-1362 平日9時～15時)

地域たすけあい事業

移送協力会員さん大募集！

「地域たすけあい事業」では地域の皆さんが有償で、ご近所の方の家事や病院への送迎をお手伝いしています。

現在、移送協力会員さんを大募集しています。浅川地区で所有する2台の福祉自動車を使い、歩行困難な方のご自宅と医療機関の間を送迎するサービスで、身体介助は行いません。

普通免許をお持ちの75歳までの方なら2日間の講習を受けることでご協力いただくことが出来ます。（講習費用はこちらで負担いたします）



詳しくは たすけあい事業コーディネーター・野口 ☎263-3365 まで

今年もアサギマダラがやってきました！～浅川フジバカマ苑～

「第一次浅川まちづくり計画」の一環で2016（平成18）年に七二会地区からフジバカマの苗をもらい受けて浅川ダム河畔に開設した浅川フジバカマ苑。

9月9日に飛来が確認されてから中旬まで、昨年はこの時期に乱舞していた「旅する蝶」アサギマダラの飛来が少なく、猛暑や天候不順の影響かと心配しましたが、中旬以降、日を追うごとに飛来数が増え、10月上旬には80頭を超えるアサギマダラが確認されました。地区内外から見学者も訪れ、蝶の舞う姿をカメラに収めていました。



【フジバカマの蜜を吸い、蒼空に舞うアサギマダラ！】

令和5年度 土木要望現地調査行われる

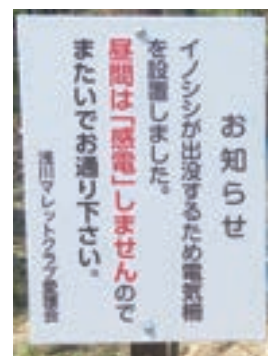
浅川各区では毎年長野市に対して土木事業に係わる要望事項をまとめ、それに基づいて市担当課職員が地区に出向き、区長他役員立ち会いの下で現地調査を行っています。

今年は10月12日、13日の2日間、道路課、河川課、維持課、農地整備課、森林いのしか対策課が参加し各地区の危険箇所等の確認を行いました。



浅川マレットゴルフ場に電気柵設置される！

猪によるコースの侵害・掘り起こしに悲鳴を上げる浅川マレットゴルフ場は、これまでも被害の深刻さを長野市に訴え対策を要請してきましたが、9月14日市スポーツ課立ち会いの下、特に被害がひどいコースの周囲に猪防止用の電気柵を設置しました。またプレーをする人たちに電気柵設置の注意を促す看板も設けました。



【取扱い説明を受ける竹元光義会長ほか会員のみなさん】

【電気柵の効果が上がることを期待しましょう！】

広報委員から

「せせらぎ」の編集に携わることで、浅川地区の行事や活動などたくさん知ることができ、とても良い経験をさせていただきました。

育成会としても、4年ぶりにゆうわ祭に参加させていただきました。

少しずつですが、コロナ前に戻りつつあります。私の住む東条地区では小学生の人数が少なくなり、今年は中学生も参加して秋祭り子供神輿を行うことができました。

今年は例年に比べインフルエンザ流行が早いようですが、皆様ご自愛ください。

広報委員 高橋 咲子（次世代育成部会 育成会長）